

秋田港・能代港再生可能エネルギー導入検討協議会
第1回協議会（平成26年1月28日） 議事概要

1. 開会
2. 港湾管理者挨拶
3. 委員紹介
4. 協議会の役割について
 - ・協議会設置要綱の説明
 - ・本協議会の位置づけの説明
5. 会長選出
 - ・川島委員を会長に選出
6. 議事
 - 1) 資料説明
 - 2) 討議

(中尾委員)

 - ・資料をみて気付いた点として、p12の洋上風力発電の着床式の建設数は、30基ではなく24基である。浮体式は福島県沖と長崎県の沖合である。
 - ・p18ではIEAの資料を引用しているが加盟国しか集計されていないので、EWEAの資料を参照したほうがよい。
 - ・p21の千葉県銚子沖の規模が2000kWとなっているが2400kWが正しい。
 - ・P26に風力発電の事業化の目安として年平均風速が5～6m/s以上となっており、これは陸上風力発電の目安ですが、現在は6.5m/sぐらいが目安とされている。洋上風力の場合は建設コストがかかるので7m/sぐらい欲しいといわれている。
 - ・質問として、p38の「刺網希望」について教えて欲しい。

(事務局)

 - ・ご指摘の点に関しては再調査し、適正な資料に更新する。
 - ・「刺網希望」については、共同漁業権が消滅した区域であるが、関連漁協から刺網漁の操業が希望されている区域を表している。

(津田委員)

 - ・p31の関連法規に「電気事業法」その他関連法規が含まれていないのはなぜか。
 - ・P54の写真に写っている能代火力発電所の放水口に支障がないよう、事業化の際には距離を離してほしい。
 - ・また、発電所の温排水に関しては県との協定に基づき、継続的にモニタ

リングしている。その連続性を損なわないような配慮をお願いしたい。
(事務局)

- ・関連法規はマニュアルを参考にして記載しており、指摘等があれば取り上げ、対応していきたい。
- ・放水口との離間距離については、事業規模により変わってくる。付帯事項として、適正な保安距離を求めることで対応していきたい。
- ・環境モニタリングについては、風力発電の開発に関わらず、継続性を重視して実施いただくものと考えている。

(土谷委員)

- ・p68 では 5m/s 以上の風で卓越風向を示されているが、発電に適した風でみると能代港では WNW の頻度が上がるのではないか。

(事務局)

- ・資料は風力発電を目的として観測したものではなく、港湾管理の一環として観測した 5m 以上の風の傾向を整理したものであり、今後事業化の段階では、発電に適した 7m/s 以上の風による整理、検討を行っていく必要があると考えている。

3) 議論の総括

- ・資料に対するご指摘に関しては再調査し、修正する。
- ・電気事業法に関しては記載を加える。
- ・放水口の保安距離に関しては協議会の付帯事項として整理する。
- ・卓越風向に関しては事業化の段階で 7m/s 以上の風向を検討していく必要がある。

4) その他

7. 閉会